

# IL VULCANO

記憶の底に潜む 20 世紀のマグマを見に行こう 登山電車がなくなつて

## 構成表 No. 4 2015/11/6

0"00	<b>act 1</b>	即興 A	「 」 無温度 言葉・モノなし 廃墟の風 身体(その一部)がモノ、壊れたモノとなって、風 に吹かれている。
6"00	<b>act 2</b>	椅子	「 」 壁に立てかけられた椅子 見ながら下がる男
7"00	<b>act 3</b>	即興行為 B	「興風 冷めた熱 Waveしながら max へ 動き(solo/duo/group)・言葉・モノ・音 行為の中断・持続・再開 身体・モノによるイメージの挿入 ●混沌へ ●デュラス 聞く→小さく言葉をかぶせる→徐々に動き出す ●ヴァイトカッチ
22"00			
34"00	<b>act 4</b>	ホーヴォワール	Waling+Words ●途中より、間の中で 懐中電灯 音
40"00	<b>act 5</b>	一人の女	「無風」 欠落した存在
49"00	<b>act 6</b>	言葉の混沌	「 」 地熱 Waveしながら max へ +傷ついた身体の挿入……空間をよぎる/片隅
61"00	<b>act 8</b>	列の中で	「 」 冷めた熱 窓からの差込明かりの中で ●掃除人 散乱した紙を片づける ●叛乱 男 列からはずれる
73"00	<b>act 9</b>	即興行為 A'	「 」 強風
79"00	<b>end</b>		

廃墟 散乱とした光景  
記憶を失った体 ねじがゆるんだ体 止まらない機械  
動きは外からの風 内からの風  
壊れた窓 に風が吹く バタバタとした動き 音  
風に舞うボロ切れ  
風に転がるカン